

中等科・高等科

企画課管理用 教 一 B 一 2

推進主体	中等科・高等科
責任者	中・高等科長

分類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
教	一	B	生徒の個人端末(一人一台)使用に向けた環境整備	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)

① 目的・内容

新型コロナウイルス感染の影響により、PCやタブレットを生徒一人に対して一台用意する学習環境は、全国的に急速に進んでいる。中・高等科においても、これらの環境構築を含む「GIGAスクール構想」に対応することは、急務となっている。

本計画では6年間という幅広い中高の学習過程に応じた環境整備と、ICTを利用した学習が一過性のものとならないような環境整備の両面を考えながら、種々の検討・導入を行っていく。具体的には

1. 端末をPC・タブレット等のどの形態とするかの検討と機種選定。また6年間同一端末とするのかの検討
2. 端末をリース・学校買取・家庭買取・BYOD(個人端末を持参する)のどの形態にするかの検討・決定
3. オンライン学習のような学外でも活用できる学習環境整備の検討。生徒たちへのソフト面でのサポートの検討

なお、回線の高速化・接続台数強化といった環境整備や、各教室での電源確保といったハード面での環境整備の方法を検討し、施設営繕において計画を策定していく。

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

生徒一人一台に関しては、形態に応じた配備を、令和5年度開始を目安に学年ごとに順次実施することを目標とする。学内の施設面における整備は、一人一人の端末ができる限り遅延なく回線を利用でき、電池切れ等のトラブルが発生しないようにすることを第一の目標とする。また、新しい時代にふさわしい特別教室・コンピュータ教室・マルチメディア教室等の在り方についても検討し、一定の方向性を見出すことを第二の目標とする。

③ ロードマップ

年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	
予定	機種選定							
	リース等の形態選定		順次、生徒一人一台の実現					
	学内環境の検討・整備							
	ソフト面での環境整備の検討・実施							

④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1							
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							
2							
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
(2022年度)	令和3年度の議論を踏まえ、PCかタブレットか、リースか買取か、などを中心に具体的な機種や形態を検討、決定する。 電源確保のためのコンセント拡張といった施設営繕を検討し、必要に応じて実施する。 同時接続台数などで問題が発生するか否かの検討を行い、必要に応じてルーター交換といった整備を行う。 現状オンライン学習はWebClassを利用しているが、その他の形態と比較検討し、より適切な形態を模索する。	1人1台端末に関する今年度の議論では、高等科ではBYODを軸として引き続き検討していくこととなっている。無線LANの改修が行われたため、教室での接続状態は一定程度改善した。 オンライン学習用に高等科の教室と同じ数のタブレット端末を確保できたので、教室からの授業配信が行いやすい状態となった。 中等科1年生より各生徒の家庭による買い取り方式でノートパソコンを1台ずつ持たせる形を導入した。学年進行で進める予定であり、来年度の新入生への機種選定を行っている。
(2023年度)	高等科ではBYODを軸として引き続き端末について検討していく。 オンライン授業環境の改善に向けて意見交換を行う。 中等科新1年生においても各家庭の買い取り方式でノートパソコンを持たせる形を進める。	高等科では令和7年度よりBYOD方式で一人一台端末を導入する方針を中心に検討し、利用するアプリケーションの選定や回線への接続方法といった、より具体的な準備を行っている。 中等科では今年度の1年生にも各生徒の家庭による買い取り方式でノートパソコンを1台ずつ持たせた。学年進行で進める予定であり、来年度の新入生への機種選定も完了した。 関連して中等科では端末利用時における教育効果をより高めるため、アプリケーション(MetaMoJi classroom)を導入した。
(2024年度)	高等科では令和5年度中に決定した方針に則して、利用するアプリケーションの選定や、教員の個人端末における回線接続テスト、端末利用時における注意点などをまとめていく。 中等科では今年度の1年生にも各生徒の家庭による買い取り方式でノートパソコンを1台ずつ持たせ完成年度とする。アプリケーション(MetaMoJi classroom)を活用し、平常授業時の教育効果をさらに高める。	高等科では令和5年度中に決定した方針に則して、令和7年度よりBYOD方式で一人一台端末を導入する方針を決定し、現高1および高2生に周知した。7年度新入生に対する周知と購入支援の計画を決め、補助金申請に向けた予算措置を行った。利用するアプリケーションの選定を進め、教員の個人端末の回線接続を開始、端末利用時における注意点などをまとめて周知した。 中等科では今年度の1年生にも各生徒の家庭による買い取り方式でノートパソコンを1台ずつ持たせ3学年すべてへの導入が完了した。アプリケーション(MetaMoJi classroom)を活用し、平常授業時の教育効果をさらに高めた。
(2025年度)	高等科では令和6年度中に決定した方針に則して、令和7年度よりBYOD方式で全学年一斉に一人一台端末を導入する。中・高等科全学年で端末を利用することになり、一層モラル・技術の両面での教育を充実させていく。7年度高1生については、購入支援補助金の活用のための予算を執行する。 中等科では新年度1年生にも各生徒の家庭による買い取り方式でノートパソコンを1台ずつ持たせる。中高等科ともにアプリケーション(MetaMoJi classroom, Canva)の活用をさらに進め、平常授業時の教育効果を一層高める。	高等科では令和6年度中に決定した方針に即して、令和7年度よりBYOD方式で全学年一斉に一人一台端末を導入した。中等科が使用しているアプリケーション(MetaMoJi classroom)を高等科にも導入し、Google for Educationの利用も開始した。中等科は引き続き新入生に家庭による買い取り方式でノートパソコンを1台ずつ持たせており、様々な場面で活用されている。 また生成AIに関する特別講義を実施し、新しい技術の伝達に留まらず、情報モラル教育の観点からも指導した。あわせて教員向けの研修(Google、生成AI)も実施し、平常授業時の教育効果をさらに高めた。今後はこれらの取り組みを継続・発展させるため、適切な生徒向け特別講義や教員向け研修を継続的に実施し、バッテリー問題などの環境整備も進めていく。
(2026年度)	高等科では令和7年度中に決定した方針に則して、令和8年度も引き続きBYOD方式で生徒一人一台の端末利用を維持する。中等科では新入生に各生徒の家庭による買い取り方式でノートパソコンを1台ずつ引き続き持たせる。中・高等科全学年で端末を利用することになり、一層情報モラルと技術活用の両面での教育を充実させていく。 中高等科ともにアプリケーション(MetaMoJi classroom, Canvaなど)やGoogle環境の活用をさらに進め、適切な場面で生成AIも利用する。これらを通じて、平常授業時の教育効果を一層高める。	